

『 娘のねびに寄せて思ひ陳ぶるの詞 』

三年次生活も、いとど果てのころに差し掛かりゆきき。日々学問に向き合ひ、己のえぬ所、足らぬ所にばかり思ひの向きがちなるころかと思ふ。さる皆の心やりにならばと思ひて書けり。まことや、去年の水無月に生まれし我が家の娘の物語す。あな、己の娘わらはは、げに美しかし。笑顔やあからさまにせる言の葉、しづさにメロメロなり。『枕草子』「うるはしきもの」の段に「ちごの、急ぎてはひくる道に、いと小さきちりのありけるを目ざとに見つけ、いとをかしげなる指にとらへ、大人などに見せたる。いとうつくし。」とあれど、げに。見せ、やがて我にくる。うつくし。(されどその「小さきちり」を食はむとすることのあるが、あいなけれど) いま一歳四か月のさる我が子なれど、はや未だ歩む所まで行きたらず。憂ひはしたらねど、平均より少し遅めなめり。我が教へ子のわらはは、さても十か月に歩みし子もあるなど。されど、わらはの育ちは違ひもそれぞれとりどりに、いづれ立ち、話し、みな等しくなるなり。さ言はば、おのれの娘は三千六百四十g の大きみどりごに生まるれど、今や人並みに落ち着きき。また、「はひはひ」のころの長きことに、なかなか体鍛へらるなり。



わらはの生まれしためしより、我が子のねびに皆（高校生の皆さんのこと!）のねびをなぞらへ考ふるが増えけれど、ともに人の育ちは千差万別にも一定のどちめにはいづれ達せむ、今えぬ・憂しといふが行くす糸の恵みになることもありなむと思ふ。今は志す試験に向け学問をただただ思ひ励むころかと思ふ。せちに思ひ励みたらば一にめでたけれど、その励みの中に、学力よりほかの皆の中の「何か」ももろともに日々伸びたりと確信せり。うちの娘のごとく「今えぬこと」や、「それを歯がゆがる心地」が、ゆくす糸皆が幸せに生くるための人力に定めて繋がりゆく。いと曖昧なるもの言ひなれど、ゆくす糸のことなれば、かかる言ひ方のみえせぬを御免かうむりたまへ。今思ひ励む己、今思ひわづらふ己を信じて、いつきて、あとは、友どちや師もたよりに信じて、卒業までの日々を歩みゆかむ。(来む年の弥生までにいかでうちの娘を皆に見せばやな。)

2組担任 向山 直貴

『 視点と捉え方 』

みなさん、こんにちは。天野です。突然ですが、「びじゅチューン」というテレビ番組を知っていますか？世界の美術をユニークな歌とアニメーションで紹介する番組です。クリエイターの井上涼氏の視点に注目してみたいと思います。例えば、「見返り美人図(作:菱川師宣)」という日本画の作品、一度は目にしたことがあるのではないのでしょうか。井上さんはあの絵から「見返りすぎて、ドリルのようにぐるぐる回りだすのでは!？」という発想から「見返りすぎてほぼドリル」という作品を生み出しました。(興味のある方は検索するとすぐ出てきます)一見何気ない思いつきのような印象をひとつの作品に昇華する点もさることながら、「モノの捉え方」について考えさせられる点が重要です。別件ですが、建築家のアントニ・ガウディは「世の中に新しい創造などない。あるのはただ発見である。」という言葉を残しています。なかなか手厳しい芸術家泣かせな言葉ですね…。これは「モノの組み合わせ」を示唆していそうです。



現代の世界的な社会・環境などにおける諸問題は尽きません。現代社会を生きる上で常識や平均的な考え方は必要不可欠な面が多々ありますが、これらの諸問題を乗り越えていく新たなアイデア創出のためには、時に通例だからと受け入れず、常に根源から問いかける姿勢が必要だと考えています。これには批判的なものの見方の上に、今までの経験、そして持っている知識をいかに柔軟に組み合わせることができるかが重要です。井上さんの作品も今までの経験を通した「捉え方」と「組み合わせ方」の絶妙な配分で成立しています。

これからもいろんな経験をし、知識もさらに増えていきます。そして様々な問題に直面した際に、自分だけが持っている武器を最善の視点と組み合わせによって問題解決に繋げることができる人になってほしいなあと思っています。

2組副担任 天野 圭